



第74回 青蘭会開催!!

平成24年度

今年はベイエリアから新宿副都心へ場所を移しての開催です。
交通の便も非常によろしいのでぜひ御参加下さい。



日時 平成24年10月28日(日)
11:30～14:00 (受付開始 11:00)

会場 ヒルトン東京(新宿) 3F
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6丁目6番2号
Tel 03-3344-5111 (代表)

会費 一般会員: 8,000円 (昭和31年3月以前卒業の方4,000円)
学 生: 3,000円 (平成21年3月卒～平成23年3月卒)
新 会 員: 1,000円 (平成24年3月卒)
※ゆかた及び着物の方はさらに半額

内容 第一部 総会
第二部 来てからのお楽しみ

申込 1. ご出席の方のみ 9月29日(土) までに同封のはがきかホームページでお願いします。
2. 会費は当日、受付にてお支払いください。
3. お申込後、総会一週間前以降の欠席の場合は、会費を頂戴いたしますのでご了承ください。

出席の
旧職員の
先生方

竹沢俊次	竹沢洋子(池田)	篠田幸子	大内キミ子	竹中 翠
秋山光子	山本常一	金織登喜子(犬山)	吉田津多子	渡辺登美子
岡本瑞枝	芝田文子	橋場斐子	府高幸夫	(敬称略・順不同)

今年の
テーマ



会場への
アクセス

・丸ノ内線「西新宿駅」(C8出口) から徒歩2分
・都営大江戸線「都庁前駅」から徒歩3分
・JR・私鉄・地下鉄「新宿駅」(西口) から徒歩10分
新宿駅西口にある京王百貨店前の21番バス乗り場より、専用シャトルバスが循環しております。



73rd Seirankai 第73回 青蘭会 2011.10.10



村瀬さんが
「青蘭」というカクテルを
作ってくださいましたー

オバマ大統領
も出席っ!?



房子先生も2部のゲームで決勝リーグへ進めました!!



どれから食べるが迷っちゃう♡

昨年の総会

1部

青蘭会から、青稜中学・高等学校新築及び改修事業へのお祝いの寄付金、壹千万円を、岡田会長より、前田理事長に贈呈されました。

贈呈式



2部

2部の司会者である村瀬氏のカクテルパフォーマンスと学校の今と昔の姿のスライドショーがあり、黒ひげゲームで、全員参加をしておいしい、お食事をいただきながら、楽しい時間を過ごしました。



起工式

平成23年9月13日(火)午前11時より青田房子学院長・前田和世理事長学校関係者・同窓会・父母会関係者、設計者株式会社建築設計事務所代表取締役團紀彦氏、工事施工者鹿島建設株式会社東京建築支店関係者が集まり本工事の円滑な進展を期して代々木八幡宮平岩昌利宮司斎主のもと起工式が執り行われました。



新 副会長です

横山佳世子(56年卒)

今回、副会長になり、分からない事ばかりですが、先輩方に教えて頂きながら、役員と幹事の方のご意見をいただき、頑張っていきたいと思っています。
和気藹々と楽しい会になるように頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。
10月28日の青蘭会のご参加お待ちしております。



佐藤 美江(58年卒)

この度、副会長になりました、佐藤と申します。青蘭会が、より良い会になりますようこれからも頑張っていきたいと思っています。どうぞ皆様、青蘭会にぜひ足をお運び下さい。役員一同、心よりお待ちしております。



建設中の新校舎

2011年

9月13日起工式

2012年

5月19日進捗状況
7月28日進捗状況

2013年

荏原四中旧校舎へ高校が移転

2014年

完成（平成26年8月末予定）



● 講師だった大村先生がハケ岳を題材にした本を出版されました。



● 父母の会のHPができました
<http://seiryo-fubonokai.jp>

● 訂正とお詫び
昨年の21号ご退職の先生方の中で宮原先生の勤務年数は29年でした。訃報の小沢先生の担当は日本史でした。申し訳ございませんでした。

● 栢原和子先生と土肥光希さん(H19年卒)よりご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。



2012年3月卒 南澤佐知さん
2007年作成ポスター

夢に向かって



コミュニケーション論ゼミ
H22年卒 曾我部 萌子（横浜市立大3年）

スムーズな会話にはどのような特徴があるのか。ある場面（頼みごとをする時、誘う時、断る時、謝る時など）において、どのように話をするのか。ある言葉を選ぶことによって、どういった意味が伝わるのか、つまり、その言葉が言外に果たす役割とは何か（例えば、「～みたいなの」という言葉を文末に付け加えると、断定していないことや、ためらいを表したり、また他人の言葉の引用に見せたり、相手に与える印象をやらげたりする）。

私の所属する「コミュニケーション論」ゼミでは、このような疑問を出発点として、身近にある「ことば」の観察・分析を、社会言語学、談話分析、語用論の分野から行い、その文化的また社会的な背景についても考えています。今学期は、「笑いが起こる『勘違い』や『すれ違い』」について、三谷幸喜監督の映画「ザ・マジックアワー」や、お笑いのコントを事例に、個人研究を進めています。「勘違い」や「すれ違い」のコミュニケーションには、どのような特徴があるのか、なぜ笑いにつながるのか、といったことを明らかにしていきたいです。また、ゼミ生がそれぞれの興味によって、研究しているので、人の発表を聞くのも楽しみです。研究し、発表し、互いに意見し合うことによって、実践としての自らのコミュニケーション能力向上に努めていくことも、「コミュニケーション論」ゼミにおける研究に含まれるのです。

母校のクラブ

コーラス部

部長 奥田 陽子



コーラス部は、毎週火水金土曜日の放課後、コーチの菅原先生の熱心なご指導のもと、仲良く楽しく活動しています。同好会から部活に昇格して数年が経過し、当初は5名ほどしかいなかった部員の数が22名に増えました。そのため、最近、校内においては、各季節に行う昼休みコンサートと、青稜祭における発表、校外においてはNHKコンクールや東京都合唱コンクール、品川区民合唱祭への出場など、多くの発表の機会をつくることができ、充実した日々を送っています。

今年度は、歴代の先輩方が達成できなかった、「NHKコンクール入賞」という目標を今年こそは達成したい！ということで、ヴォイストレーニングの強化や、歌うこと以外にもランニングや筋力トレーニングを頑張ってきました。6年生部員10名は、このコンクールをもって部活を引退するため、現在のメンバーで歌うのは今回が最後となります。本番で悔いのない発表ができるよう、また、いい形で後輩たちに部活を引き継げるよう、頑張っていこうと思います。

陸上部

部長 606 大塚 真理華



私達陸上競技部は週4～5日間、主に中央公園で活動しています。現在部員数は50人近くになり、今年は仮入部に来てくれた新入部員がとて多かったのですらに大きく賑やかな部活となりそうです。今年度からは新たに森川先生がコーチに就いて下さいました。

今の6年生がこの陸上部に入ってから、毎年のようにコーチが変わっていましたが、コーチが頻繁に変わるということはあまり競技をやる上で良いことではありません。しかし、ある意味では色々な人の考え方や知識を吸収できる良い機会となりました。この経験を後輩にしっかりと伝えることが私達の役目だと思います。

今年の大会成績は例年より良く、多数の都大会出場者が出ました。しかし、都大会で満足せず、関東・全国を目指し日々精進していきます。先輩方！成長した私達を見にたまに遊びに来てくださいね！そして一緒に汗を流しましょう。

MY TEACHER

【番外編】

BELONGING

Lorne Deutch

Life rarely seems to realize itself as we think it should. It doesn't seem to matter how much we plan, there are some things that happen that cannot be foreseen. I never expected to find a second home at Seiryō, and in Japan. But that is exactly what happened.

When I began working at Seiryō in the spring of 2006, I honestly thought that I would only stay for a couple of years before moving on. Working as a part-time teacher, I believed that I would soon be looking for a better suited job, and probably in my native city of Toronto, Canada.

However, much to my surprise, it soon became apparent to me that I had found a place that not only needed me, but also fulfilled and satisfied what I needed in working as a language instructor. Students tried their best to improve their English, my fellow teachers strived to create a positive learning environment, and the school was dedicated in the pursuit of student betterment. It seemed that I had found a home, a place that I belonged, and half a world away.

I will never forget my time at Seiryō. I woke up every morning happy, walking to work, saying good morning to students and teachers. It felt warm, friendly, and familial. In fact, that's what Seiryō became to me, a family. A place where I felt true belonging. Believe me, I have traveled to many places all over the world, and this is no ordinary occurrence. It is not an easy thing to find belonging. True belonging is something that we need to search for, but I was lucky enough to find it at Seiryō. As I begin my new life in Canada, I feel fortunate. Fortunate that I could meet so many wonderful students. Fortunate that I had so many wonderful coworkers. Fortunate that I could find a home, half a world away. From the bottom of my heart, thank you all so much.

《和訳》

人生は向かうべきと思う方向に進まない事をたまに自覚させてくれます。どんなに綿密な計画を練ろうと、予見できない出来事は起こるものです。青稜と日本が第2の故郷となるとは、私は思っていませんでした。しかし現実には起こったのです。

2006年の春に青稜で教えたときは、私は数年で次の仕事に移るつもりでした。講師として働くよりは、直ぐにもっと自分に合った良い仕事を故郷のトロント（カナダ）で探すつもりでした。

自分でも驚きでしたが、私が必要とされていると実感しただけでなく、青稜は語学講師として働くのに大変満足できる環境でした。学生たちは皆、英語上達に努力していることを実感し、同僚の講師の方々は学ぶのに最適な環境作り而努力し、そして学校は学生たちの向上に最善を尽くしていました。私は世界の反対側で素晴らしい家族を見つけたと思っています。

青稜での人生は決して忘れません。毎朝幸せに起きて仕事に向かい、学生たちや講師の皆さんにおはようと言っていました。とても温かくフレンドリーで家族的でした。青稜は、私の家族同然です。本当にいるべき場所だと感じています。世界の色々な場所を旅してきましたが、こんな事は起こりませんでした、本当に。

いるべき場所を探すのは容易ではありません。本当にいるべき場所を探すことはとても重要で、それを青稜で見つけることが出来た私は幸せです。カナダで新しい生活を始め、私は幸運だったと思っています。たくさん素敵な素晴らしい学生たちに出会えたこと、素晴らしい同僚を持ったこと、地球の反対側に故郷を持ったこと…

心の中から感謝いたします。

ローン・ジュイッチ

吹奏楽部定期演奏会

のお知らせ

日時 平成 25 年 3 月 27 日 (水)
会場 品川総合区民会館 きゅりあん (大井町)

＊時間は、吹奏楽部ホームページでご確認ください。

2013.3.27

きゅりあん
(大井町)

My Teacher

府高先生はS30年～H02年まで勤務し、第40回かわさき文学賞を受賞されました。今年3月まで英語教師をしていたローン先生にはカナダから原稿を送って頂きました。



ロシア エルミタージュ美術館

赤富士に魅せられて
(青蘭学院時代の思い出)

旧商業簿記教諭 府高 幸夫

私が青田龍蔵先生にお会いしたのは、大学卒業後、郷里の学校で教職についた昭和30年頃のことでした。先生は女子教育の大切さを説き、建学の精神を熱く語られた。そして「青蘭学院」へ来ないかと誘われたのである。私は胸を熱くして先生の言葉に耳を傾け「良い教育者になる」と自分に誓い、誇らしい気持ちで東京行きの列車に乗った。

簿記は私の専門分野であるから、教壇に立つのは心の弾み思いであった。生徒の方も簿記の勉強に興味を抱いたらしく、簿記検定の時期がくると皆が合格を目指して、実によく勉強した。その成果が現れて、多数の2級3級の合格者が出るようになった。生徒たちの喜びは私の喜びでもあった。

簿記の勉強というのは社会に出て即、役に立つものであり、女性が簿記を学び、技能を身につけることに、私は将来の社会の姿を思い描いて、希望を持った。

創立記念日などに集まる卒業生が、「私は簿記の帳簿付けでお客さんに五人任されている。」「私は六人よ。」と話すのを聞いて、胸のうちに誇りに思ったものである。

忘れられないのは、二泊三日の山中湖の合宿での思い出である。生徒たちとボートに乗って、湖の浅瀬を廻り楽しく、はしゃいだものである。また湖畔の四キロのコースを自転車一周すると、反対側の地点で西日に染まった「逆さ富士」が湖面に映り絶景であった。あの時の赤富士の姿が私の心をすっかりとりこにしまった。

最近私は、田崎広助画伯の「赤富士」を入手し、自宅で鑑賞している。私も今年八十七歳となったが、有難いことに健康に恵まれ、日々の図書館い、週に一度の絵画教室、また、たまの海外旅行を楽しんでいます。

最後に、青蘭会の皆様の一層のご健勝とご多幸をお祈りしてペンを置かせていただきます。

今回の“輝いています”の鹿兒島君は男子バスケットボール部を作ったメンバーの1人です。今現在青蘭会の役員としても活躍しています。

H.Kagoshima



2012

第17回

青稜＝今の自分

鹿兒島 秀明（H13年卒）

青稜の門を出て早12年、気がつけば今年の5月で30才になります。月日がたつのは早いものです。自分は今、(株)東武ストアで働いています。高校を出て自分の将来がまさかスーパーの店員だとはいっていませんでした。青稜時代はひたすらバスケットボールに打ち込んでいました。学校行事もつねに表に出て何かをしていた自分からすると、今の職は意外だったと思います。しかし、スーパーの店員も昔の青稜生活と似ている気がします。お客様に気持ち良く買ってもらうために色々な売場作りをしたり、新しい商品を並べたり、1日1日がつねに新鮮な毎日と思うのは青稜の頃も同じでした。今の職について5年目、今年からマネジャーに昇格し、今は業平店の食品マネジャーとして日々仕事しています。5月22日に東京スカイツリーがオープンした近くの店です。毎日スカイツリーを見ながら、青稜の時同様に楽しく、すばらしい人達と一緒にガンパっています。

